

平成27年10月22日

研修報告書

松戸市議会議員

大塚 健児

研修:図書館が変われば、まちが変わる、議会も変わる。

主催:ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟

日時:平成27年10月22日(木) 14時~16時半

場所:TRC図書館流通センターB1会議室

次第:1.【第一部 基調講演】 「図書館と議会」 北川正恭早稲田大学院名誉教授

2.【第二部 図書館でまちを変えよう】(事例報告)

①地方創生に向けた図書館活用

②デジタルアーカイブで地方創生

1.【第一部 基調講演】 「図書館と議会」 北川正恭早稲田大学院名誉教授



議会についての基本的な講演だった。

議会は執行部の決定権者。対等な関係であり、追認だけでは駄目。

鏡のごとく民意を反映すること。

北川正恭さんが三重県知事の際、議員図書館を執行部までひろげた。

公共図書館は静かな方がいいのか？賑やかな方がいいのか？時代を考える必要がある。

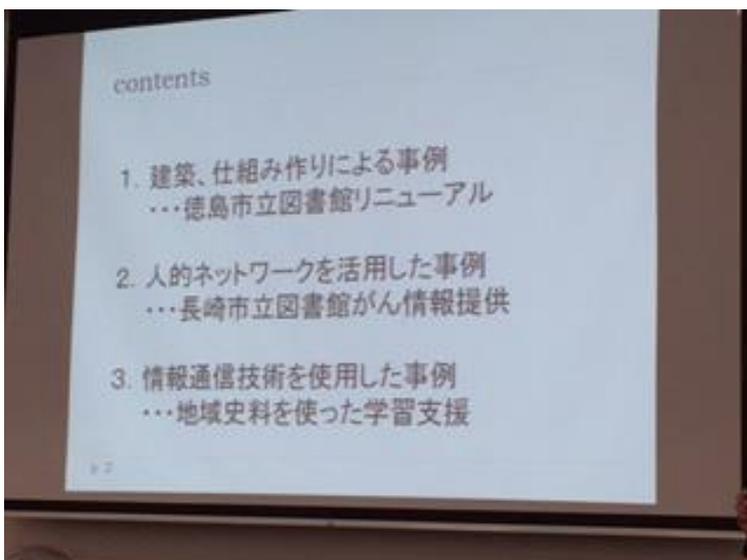
議会側から一大運動に変えること。民が官を動かすこと。

2.【第二部 図書館でまちを変えよう】(事例報告)

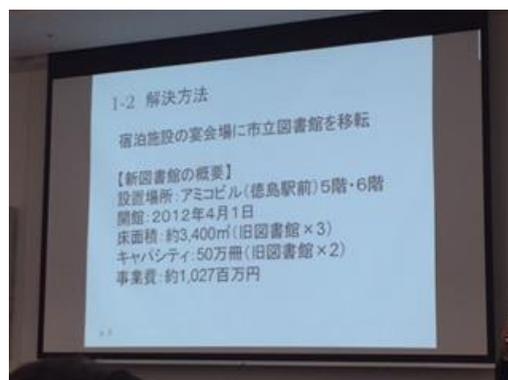
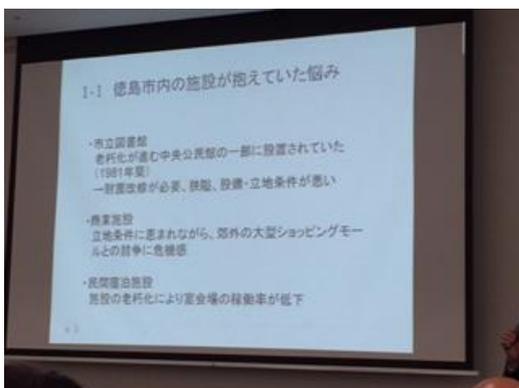
①地方創生に向けた図書館活用



3つの点で細かく説明がありました。

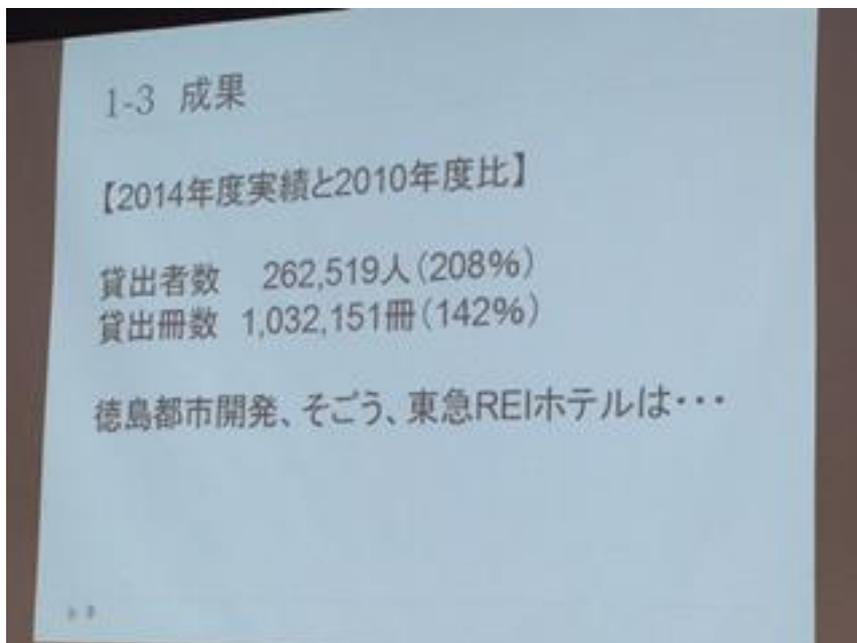


まずは徳島市立図書館のリニューアルについて。

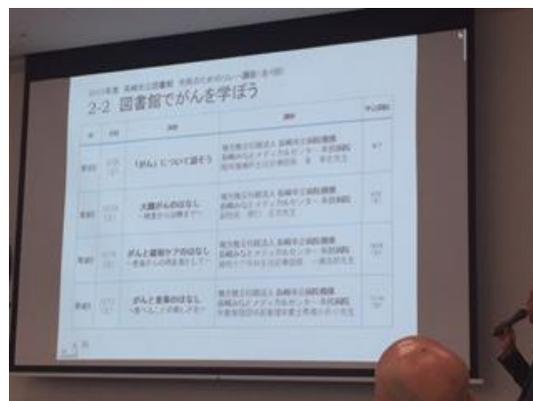
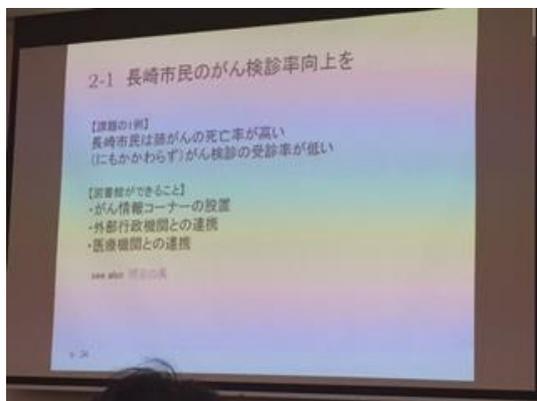


郊外の大型ショッピングモールとの競争危機感があった。

そこで駅前商業施設を利活用。商業施設の5階と6階部分に市立図書館を移転する。



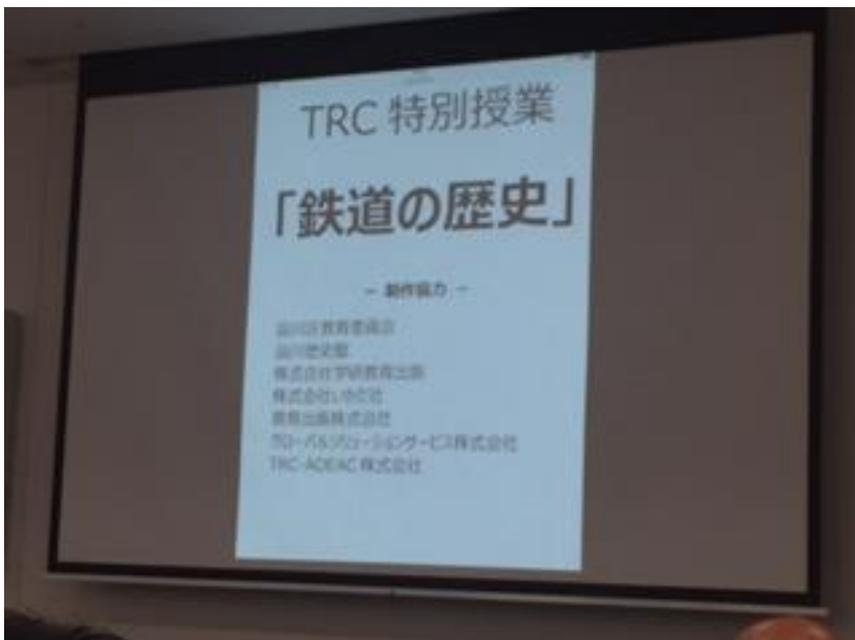
次に長崎市立図書館について



長崎市民は肺がんの死亡率が高いにも関わらずがん検診の受診率が低いという点に目を付けた。そこで長崎市立図書館は『がん情報コーナー』の設置を行った。

市民が何に困っていて、何に興味があるのかを考えた『コーナー設置』を行っている。

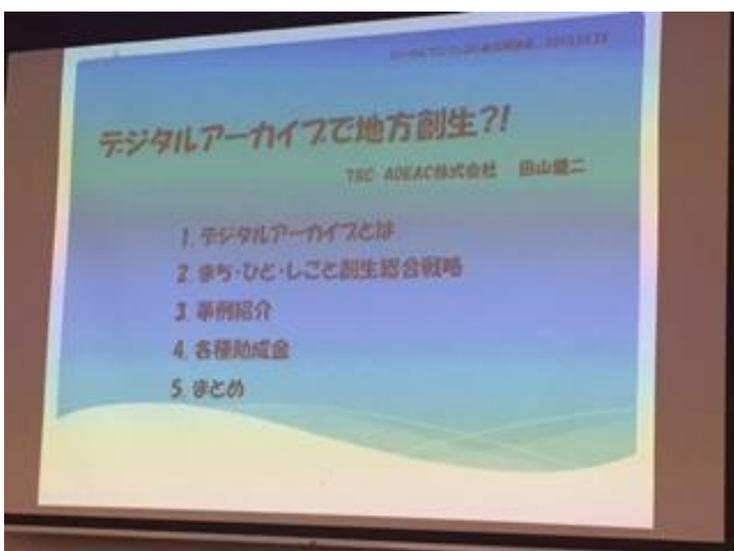
次に地域資料を使った学習支援。



品川区を例に出して説明をする。小学生が興味をもつような独自の教材を使い、図書館を使って調べる環境をつくる。

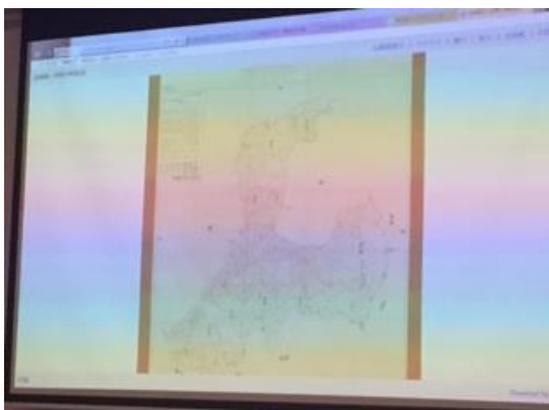
どうしたら図書館に興味をもつかという視点が大事。

②デジタルアーカイブで地方創生

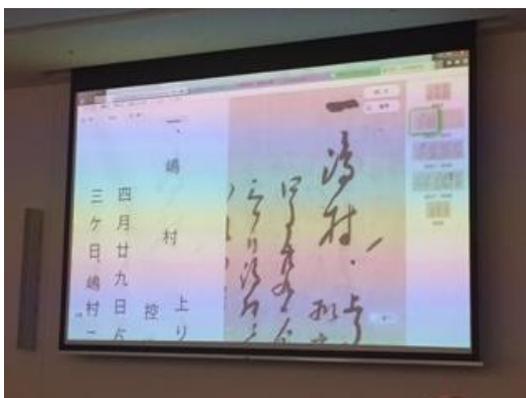


デジタルアーカイブとは…博物館、美術館、公文書館の収蔵品を始め有形、無形の文化資源等をデジタル化して保存などを行うこと。

様々な事例を画像を使って紹介。



大きい地図も細かく拡大して見れる



なんと語訳も同時に見れる

※地方自治体の事例紹介

- 射水市新湊博物館…地域の偉人。測量関係の資料約600点
- NPO長野県図書館等協働機構…市民協働・MLA連携・連続講座・補助金の活用
- 石川県立図書館…超大型絵図

など…。

※各種財源・助成金

- 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」関連予算
- 文化庁「文化遺産を活かした地域活性化事業」
- 文部科学省「地域に根ざした創意工夫ある道德教育」

など…。

【まとめ】

埋もれている地域史料のデジタル化を行う。インターネットに公開をし、実際に学校や家、地域で利活用をしてもらう。その結果新しい知識の創造と活性化が期待できるというものである。

【感想】

正直地域史料のデジタル化は想像できなかった。しかし、実際に画像を見てみると大変便利と感じた。一方で、施設訪問件数が減るのではないかという懸念がある。講師はデジタルで見れば、本物を見たくなくなるはずという論点で訪問件数は減らないというが果たして本当にそうか？しっかりと研鑽をし、結論を導き出したいと思う。いずれにしても、デジタル化は賛成。